

2(2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)**特筆すべき教育活動**

(1) 魅力ある大学院教育イニシアチブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」は前年度で予算措置は終了したが、平成19年度もこれを継続し、基幹科目4科目、展開科目4科目、発展科目2科目を開講した。発展科目の中で夏期休暇に実施された集中日本語コースには、学習者として2カ国から留学生22名を受け入れ、院生10名が実習を行った。

(2) 21世紀COEプログラムでは、大学院生の国際的研究発信力を向上させるため、ワークショップでの報告・質疑応答はすべて英語で行うこととし、そのための特別な英語講習を行っている。

(3) 国際高等研究教育院言語・人間・社会システム領域基盤に21世紀COEプログラムに関連する2科目を提供した。

特筆すべき研究活動

(1) ドイツ文学の原研二教授は、1996年以來ドイツ語による『ヤーコプ・ブルクハルト批判版全集』の中心となる『イタリア・ルネサンスの文化』共同編集に参画し、2007年3月に第1巻、10月に第2巻を刊行した。本書はヨーロッパの文化・歴史を論じた西欧古今の名著であり、その史上初の批判版を日本人グループが編集したことは世界の人文学界に大きな衝撃を与えた。

(2) インド学仏教史の後藤敏文教授は、古代インド・サンスクリット言語の文法研究で世界的に知られる。ハーバード大学のヴィッツェル教授とともに『リグヴェーダ』（紀元前1200年頃に遡る世界最古の神々への讃歌集）のドイツ語訳に取り組んできたが、その第1巻が2007年秋に刊行された。インド・ヨーロッパ語族文化を理解する上での最重要文献として世界中の学者から注目されている。

(3) 行動科学の佐藤嘉倫教授は、21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」のリーダーである。このプログラムの中核プロジェクトは10年ごとに行われてきたSSM（社会階層と社会移動）調査であるが、佐藤教授は大型科学研究費の特別推進研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」（2004～2007年度）を獲得して2005年SSM調査を実施し、その成果を15巻に及ぶ報告書にまとめて公表した。

(4) 美学・西洋美術史の芳賀京子准教授は、大学院生当時イタリア・タルクイニア遺跡の発掘に参加し、以来、古代ギリシャ・ローマ美術史の現地研究に携わってきた。考古学、碑文学、文献学など実証的手法を駆使してロドス島古代彫刻の全容を明らかにした著書『ロドス島の古代彫刻』（2007年6月）は国際的にも第一級の成果として高い評価を受け、この年度の地中海学会ヘレンド賞を受賞した。

(5) このほか「若手研究者萌芽研究支援プロジェクト」に採択された2つの研究を中心に、若手研究者のネットワークが形成され、活発な活動を行っている。

(6) 研究科長裁量経費を「東北文化研究室」「方言研究センター」「歴史資源アーカイブ」等の共同プロジェクトに重点的に配分し、支援している。

(7) 『大学ランキング2007年版』（朝日新聞社刊）によれば、東北大学の人文社会科学分野におけるISI論文引用度指数は国内第1位である。ここには、文学研究科教員分も数多く含まれているものと思われる。

特筆すべき社会貢献活動等

(1) 東北大学創立100周年を記念して「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」を創設した。東北電力、河北新報社、JR東日本仙台支社、東北大学研究教育振興財団等の後援を得て高校生を対象に募集を行い、9月の締切までに全国45校から384点の作品が寄せられた。野家副学長、内館牧子氏などの委員による審査を経て受賞作品を決定の上、10月6日のホームカミングデーの折に受賞者を招待して表彰式を行った。なお、最優秀作品は、2008年7月に開催された洞爺湖サミットとの関連で産経新聞コラム「産経抄」で紹介された。

(2) 文学研究科独自で、あるいは他部局と共催で、以下のような市民向け講演会・講座を実施し、いずれも多く多くの市民の参加を得た。①5月から大崎市岩出山で開催した有備館講座には、5回の講座に合計約200名の市民が参加した。②植物園と共催で11月に実施した市民オープンキャンパス「紅葉の賀」では、講演の他に、お茶の野点、俳句の会、箏曲（箏・三絃）の演奏などを行い、約300名の市民の参加があった。③やはり11月に実施した「市民のための文学サロン」には市民60余名が参加した。④みやぎ県民大学「大学開放講座」は8月から5回にわたって講座を行い、延べ400名が参加した。また、上級編として開催された「ステップアップ開放講座」（全4回）には延べ320名が参加するなど、多くの市民の参加を得た。